

## 主な論点（各委員への事前説明より）

### 基本目標（1）：市のポテンシャルを生かした定住を推進します

基本的方向①：市のブランドイメージを高めます

基本的方向②：国府宮駅周辺の高度利用を高めます

基本的方向③：就職・結婚時において居住地として選択される都市を目指します

基本的方向④：持ち家取得時において都心からの転入者の受け皿になるとともに市外流出を防ぎます

- ・いなっピーはかわいらしく、子ども受けも良いキャラクターであり、もっと稲沢市の認知度向上に一役買うことができるのではないかと。シティプロモーションを進めるにあたり、もっと有効的な活用手法を検討できれば良いと思う。【総合戦略：（1）①】
- ・ふるさと寄付について、リンゴの木等で良くあるオーナー制度はどうか。植木やその他生産物について、寄付金次第で丸ごと一本、オーナーになってもらう。立派な植木がほしい人は、大きな庭園の所有者である可能性もあり、植木産地の稲沢市のPRにも繋がるのではないかと。【総合戦略：（1）①】
- ・シティプロモーションに力を入れているところは、広告代理店等に委託しているところが多い。だが、必ずしも広告代理店任せにする必要はない。市内大学に情報メディア学科があるのであれば、そうした大学との連携も一案。川崎市宮前区がヘヴィメタルでまちおこしをやっているが、そうしたアイデアも知名度アップには必要。【総合戦略：（1）①】
- ・稲沢市に住むメリットがないと、定住に繋がらない可能性があり、今後、稲沢市の特長を前面に出していかなければならないと思う。【総合戦略：（1）①】
- ・行政の運営によるものでなくても、民間企業による不祥事でマイナスイメージが定着してしまうこともある。シティプロモーションによって、市のブランドイメージ向上が図られることを期待する。【総合戦略：（1）①】
- ・「くれよん」という地域情報誌を見た。稲沢市の民間企業も掲載されているが、感じることは、地域でばらばらに売り出している感じがする。合併後も一体感を感じられない。今後、稲沢市として売り出していくものについて、例えばギンナン一つとっても、祖父江地域のものであるという雰囲気が出てしまう様では中途半端なものになるのではないかと。前回の会議でも意見としてあったように、地域間

の隔たりを除くことが大事ではないだろうか。【総合戦略：(1) ①】

- ・岐阜県圏域でも地域によって、稲沢市は移住としての選択肢に位置している。広報やPRを積極的に広範に行い、強みをそこでアピールできると良い。【総合戦略：(1) ①】
- ・シティプロモーションを専門家に依頼するケースも増加している。市のPRをプロに任せてお金をかけることも必要かもしれない。【総合戦略：(1) ①】
- ・熊本県のキャラクターくまもんは認定ブランドであれば、作物の出荷用の段ボールにもくまもんがプリントされており、いろいろなどころで見かける。いなっピーも活用方法を工夫すると面白いと思う。【総合戦略：(1) ①】
- ・良くも悪くも稲沢市のホームページは整っているため、あまり目を引かない。【総合戦略：(1) ①】
- ・観光協会はやはり国府宮駅若しくは稲沢駅にあるべきだと思う。市外の人に来て現況では利用のしようがない。【総合戦略：(1) ①】
- ・シティプロモーションを進めるにしても、ターゲットを絞ってアピールしたい層を明確にした方が効果的ではないだろうか。均一に誰にもという感覚が、PR内容をぼやかしてしまう。稲沢市においては地理的条件も優れており、プロに任せればいろいろなアイデアが生まれるのではないか。【総合戦略：(1) ①】
- ・「重点戦略(3) シティプロモーション」について、母親が趣味で油絵を描くのだが、本市は非常に絵になると言っている(山が見えて緑が豊かで)。そうした良さをなんとか活用できないか。【総合戦略：(1) ①】
- ・マツコの番組で、自虐的なシティプロモーションを行う自治体を集めていたが、とても面白かった記憶がある。そこまでの上層部の懐の深さを期待できるかはわからないし、賛否両論あるだろうが、認知度向上のために一考の価値はある。大学の友人に「稲沢市出身」と言っても「あ〜」とか「へ〜」というリアクションしか返ってこないが、少なくともそうした現状からは脱却できるのでは。【総合戦略：(1) ①】
- ・前回の会議でも意見を述べたが、若い女性同士が行こうと思うようなおしゃれな店がない。おしゃれな店と言われて市内で思い浮かぶのは、杏和高校近くのカフェくらい。市内の飲食店が連携したグルメクーポンなどのキャンペーンがたまにあるが、親と一緒にいく程度。【総合戦略：(1) ①、②】
- ・リニア開通が2027年に控える中、住みたい街(駅)ランキングが新聞紙面に掲載されていた。愛知県民の回答は名古屋駅周辺がトップ。名古屋市民の回答では、覚王山がトップということで、閑静な住

宅街が好まれる傾向がうかがえた。愛知県民、名古屋市民であっても名古屋市内が上位独占しており、生活利便性の高い地区であるとともに、地下鉄等の交通網が発達しているところが選ばれているというのが実感。【総合戦略：(1) ②】

- ・ 稲沢市を含め、この地域では車を所有するのが当たり前。しかし、都心では維持費だけでも出費が嵩む。個人的には生活環境面等を考慮すれば、田舎に住むことは悪くないと感じており、稲沢市は国府宮駅付近であれば、交通の不憫さを感じることは少なく、居住の選択肢となる可能性はあるかもしれない。【総合戦略：(1) ②、③】
- ・ 祖父江在住だが、尾西線を利用するよりも利便性がよいため、名鉄国府宮駅を利用する機会も多い。ここを重点的に整備していくことは必要と考える。【総合戦略：(1) ②】
- ・ 連続立体交差がすべてではない。高架による影により、まちの印象が悪くなっている例も見受けられる。そうならないように工夫している岐阜市の例もある。【総合戦略：(1) ②】
- ・ 国府宮駅周辺の再整備を考えるとときには、ユニーの人の知恵を借りてはどうか。稲沢アピタとリーフウォークの中間に位置する場所であり、ユニーとしてもアイデアがあるであろうし、気になる地点であるだろう。また特に人を呼び寄せるためには、民間ノウハウが必要ではないか。【総合戦略：(1) ②】
- ・ 鳴海駅周辺や刈谷駅周辺は参考になる市街地整備ではないだろうか。駅近くの整備を図るには、どういった建物用途でどれくらいのスケールが必要か。またどれくらいの範囲を開発するのかといった前提となる調査が重要である。【総合戦略：(1) ②】
- ・ 名鉄国府宮駅については、特急が止まる駅であり、他地域の特急の停車駅と比較すると、活気を感じない。拠点駅であるという認識はこれまでなかったし、それに相応しい駅とは言い難い状況である。【総合戦略：(1) ②】
- ・ 名鉄一宮駅の図書館は何回か利用したことがある。至近に軽食できる店もあり、利用勝手がよい。一方で稲沢の中央図書館は利用したことがない。国府宮駅周辺の再開発を進めるにしても、どういった施設を導入するかは重要になるであろう。【総合戦略(1) ②】
- ・ 津島市、弥富市では駅前開発に力を入れるようである。特に弥富市では名鉄だけでなくJRや近鉄もあるため、効果は大きいのではないか。【総合戦略：(1) ②】
- ・ リニア開通も控えているなかで、国府宮駅周辺の再整備は最重要戦略として取り組んだほうが良いが、地権者をまとめることにはかなりの労力を要するだろう。世代交代等が進んだときにチャンスだと思う。【総合戦略：(1) ②】

- ・名古屋市よりも安く一軒家を所有でき、名古屋駅から約10～15分の距離に位置していることは十分魅力である。再開発に伴い、ロータリーの拡張は不可欠であろう。【総合戦略：(1)②】
- ・国府宮駅周辺整備は重要である。しかし、整備の完了とともに老朽化も同時にやって来る。順序立ててやるのが将来への負担やリスクを軽減できると思う。【総合戦略：(1)②】
- ・稲島東周辺や南大通は店舗も比較的多い。国府宮駅周辺に住宅も増えれば、利用者の増加も見込むことができ、もっと活気が生まれるのではないだろうか。【総合戦略：(1)②】
- ・名鉄国府宮駅からJR稲沢駅間は、高層な建築物や店舗がもっと増えると市街地のメイン道路にふさわしい空間となると思う。既存建物が住宅ばかりであるのが残念である。【総合戦略：(1)②】
- ・国府宮駅そのものの規模が小さいと感じており、周辺開発には名鉄を巻き込んで考える必要がある。また、既に混雑を招いているロータリーの拡張にも着手してほしい。【総合戦略：(1)②】
- ・都会人は暗い街を嫌う傾向にある。名古屋のベッドタウンとして流入人口を増やすにしても、ある程度都会慣れした人からすれば、駅周辺が住宅ばかりではやはり寂しい。賑わいをもたらす開発に取り組んでほしい。【総合戦略：(1)②】
- ・国府宮駅周辺については、オフィスや店舗も高層化を図ることで、狭小な街区であっても効率的な活用が望まれる。【総合戦略：(1)②】
- ・ある地域では、一度に300戸もの住宅分譲があった。そのため、学校をはじめとするインフラ整備が急きょ課題に挙がったようである。従って、市街地整備を図り、宅地供給を進めるにしても順序立てて行うことが必要になるかもしれない。【総合戦略：(1)②】
- ・「重点戦略(1)名鉄国府宮駅周辺の再整備」だが、市民全員が現在の国府宮駅に対し「変わってほしい」と思っているのではないか。普段は津島線を利用するが、勝幡駅のロータリーの方が国府宮駅のそれより広いのではないか。本線の特急がとまる駅が、勝幡駅に負けているのはいかがなものかと思う。【総合戦略：(1)②】
- ・結婚後は実家からの近住が理想だが、嫁の意見に左右されると思う。【総合戦略：(1)③】
- ・宅地供給を図っても、交通の便がいい所には人は住むかもしれないが、交通の便が悪い所にはインフラ整備が必要。どこをどのように開発するかが重要である。【総合戦略：(1)④】
- ・名古屋に本社事務所を構えるある企業が、一宮市で建設されたマンション1棟をほぼ借り上げ、実質、寮のような使用形態となっている。稲沢市においても建設される場所や規模によってはそのような流

入人口も見込めるのではないか。【総合戦略：(1) ④、(3) ②】

- ・この地域の特色から、三世代同居を促す仕組みや支援があると良いと思う。子育てをするにもやはりメリットが大きく、行政が担う保育サービスの負担軽減にも繋がるのではないか。【総合戦略：(1) ④】
- ・資料3を見ると、下津地区では稲沢市に由縁のない人が流入しているということである。利便性が非常に高く、整備された所については外部からの人が来るとことを示しているのではないだろうか。過去の経験では、場所によっては住宅の供給が進んですぐに入居するのだが、現実には内部の転居であった。しかし、稲沢市には外部からも人を呼び込むことができる魅力を秘めているということではないだろうか。【総合戦略：(1) ④】

## 基本目標（２）：第２子、第３子が生まれる環境を創ります

基本的方向①：男女の出会いの場・機会を創ります

基本的方向②：子育てを手厚く支援します

基本的方向③：子どもが健やかに育つ教育環境を創ります

基本的方向④：仕事と家庭の両立が実現可能な労働環境を創出します

- ・婚活や出会いの場の創出は、民間を中心にいろいろなところで行われており、行政が税金を投入してまでやらなくてもよいと考える。意思があるのであれば自分で行動すべきである。【総合戦略：（２）①】
- ・商工会議所等を中心に婚活に取り組んでいる地域は増えてきた。その場合、参加要件を地域で絞っていたり、テーマを絞っていたりするため、参加した時に共有できる話題があることや参加者の素性が少なからず把握できるメリットがあり、個人的には参加条件が全くフリーであるよりは良い点であると思っている。【総合戦略：（２）①】
- ・現代では、婚活のような取組みを民間で実施していることに加え、簡単にインターネットで出会いの場を探すことはできる。機会がいつでもあることが、逆に婚期が遅れている要因にもなっているかもしれない。【総合戦略：（２）①】
- ・婚活については、民間組織等でも積極的に取り組んでおり、行政主体とならなくても、運営への援助や連携を図ることによる開催でもよいのではないかと。【総合戦略：（２）①】
- ・自分の周りにも保育士の有資格者がおり、市に登録したことで、現在働いている知り合いもいる。【総合戦略：（２）②】
- ・国では、子育て経験者や教諭資格者に対しても保育士として勤務できる体制整備を方向性として持っているようであるが、やはり現場は全く違うものではないか。「教育」が主ではなく、生活を身に付けるといふ点で教え方が異なり、世話の仕方も違う。【総合戦略：（２）②】
- ・保育士の有資格者であり、子育ても経験した人が重宝されるのではないかと。子育てがひと段落終えた女性にとっては、活躍できる重要な場であると思う。【総合戦略：（２）②】
- ・身近に保育士の人がいるが、現場がかなり厳しいみたいである。一人はいくつか保育園で勤務した後、

結局異なる職業に就き、一人は教諭資格もあることから、幼稚園勤務へと変わり、一人は保育園を転々としている。【総合戦略：(2) ②】

- ・潜在保育士は間違いなくいると思われるが、職場環境を改善することは、人材確保のためには重要なことであるだろう。【総合戦略：(2) ②】
- ・保育士資格を有している人で、子育てがひと段落した人もいると思う。そのような中、預ける側も2、3時間だけ預けたいというニーズはあると思う。そうしたフレキシブルな雇用が今後は重要になるのではないか。【総合戦略：(2) ②】
- ・自分の周りにも潜在保育士は存在する。現場の人数が不足しているというのは、耳にしたことがある。多様化する保育のニーズは理解するが、働き手側についても働き方の選択肢を増やす環境整備が必要になってくるのではないだろうか。【総合戦略：(2) ②】
- ・シングルマザーへの対応は今後増加するかもしれない。それも含めた子育てに手厚い支援があるとなお良い。【総合戦略：(2) ②】
- ・子育てを機に保育士を辞めた人も多いのではないだろうか。そうした人を改めて積極的に登用することが可能であれば、保育士不足の解消に繋がっていくと思う。【総合戦略：(2) ②】
- ・24時間託児のニーズも高まってくるであろう。若い女性も夜中で働くケースが増加している。育児中の労働者等に対して、既存の制度で不足するところは勤務体制に配慮する等、民間で対応している。そうした背景も鑑みると、保育士の確保は強気な姿勢で進めていく必要があるかもしれない。【総合戦略(2) ②】
- ・保育園の運営においても現業職と事務職を分別することで効率的に運営できるかもしれない。雇用の面でも幅が広がる可能性があるのではないか。【総合戦略：(2) ②】
- ・江南短期大学では子育て支援センターの運営を行っており、専門的な知識を生かした幅広い支援や世話をしており、非常に受けが良いと聞いている。大学との連携は専門家のノウハウを十分に活用することができるため、稲沢市でも積極的に取組んでいけば良いと思う。【総合戦略：(2) ②】
- ・厚労省では、保育士不足に対応するため、教員資格者を活用する案も検討していると聞く。それを反映してなのかはわからないが、大学で教職課程を履修していると、幼児教育や保育に関する講義もある。だが、就学前の子どもは発達状況の差が大きく、子どもへの接し方は学校と保育園では全く異なると思うので、そんなに簡単な話ではないと思う。【総合戦略：(2) ②】
- ・高校時代の友人のうち何人かが短大卒業後に保育士として働いている。1年間を経過しただけだが、

2人から「辞めた」と聞いた。友人らから一様に聞くのは仕事が大変であること。持ち帰りの仕事が多く、私もその仕事を手伝ったことがある。園ごとに違う保育方針に対応するのも大変と聞いた（完全放任を方針とする園もあるとのこと）。教師と比べても給料が安く、仕事の大変さを見合わない。結婚して子育てしながら続けられるとは思えない。そうした根本的な待遇改善も必要なのでは。【総合戦略：(2) ②】

- ・ 出生率を改善することの難しさは理解できる。出会いの場の創出は必要かもしれない。また、ノー残業デー等を推進することにより、夫婦間及び子どもとの触れあう時間を作ることは重要だと認識している。【総合戦略：(2) ④】



## 基本目標（３）：市内の雇用を拡大します

基本的方向①：市内企業の経営基盤を強化します

基本的方向②：リニア開通を見越して企業誘致及び新産業創出を戦略的に進めます

基本的方向③：本市の特性や地域資源を生かして地場産業を育成します

基本的方向④：地元企業 P R や第三次産業育成等で若者や女性の雇用機会を拡大します

- ・ユニーとファミマの合併により、ホールディングスとコンビニの本社は東京、S Cの本社は稲沢に置くとのことだが、稲沢に物流拠点がない以上、S C本社も移転する懸念がある。移転防止のため、これまで以上に連携等の必要性が高まる。【総合戦略：（３）①】
- ・市有街区（B街区）については、長年多目的広場として供してきたことから利用者から反対の声も想定される。既に暫定利用ではない感がある。駅前の重要な市有地であるため、土地利用を図るうえでは、周辺住民を含めた調整は不可欠ではないか。【総合戦略：（３）②】
- ・名鉄国府宮駅及びJ R 稲沢駅については、賑わいに乏しい寂しさを感じている。J R 稲沢駅は普段利用しないが、一度利用したときには、拠点駅の一つであるという雰囲気は感じられなかった。【総合戦略：（３）②】
- ・J R 稲沢駅に快速が止まるような働きかけをしていただくと、市有街区（B街区）の有効活用にも好材料となるのではないかと。また、民間から自発的に賑わいが出るような動きも増えるかもしれない。【総合戦略：（３）②】
- ・市有街区（B街区）を老福施設の用途を兼ねた民間建築も一案ではないか。敷地内に公園の要素として広場を残すと良いと思う。そうすることで、地域の人が利用しつつ、お年寄りも触れ合える場所が提供できるのではないかと。【総合戦略：（３）②、（４）③】
- ・市有街区（B街区）については、官民が連携した共同施設も有益である。例えば、下階に育児や介護施設、上部にテナント型のオフィススペースや商業店舗等の利用が考えられる。その施設内だけで利用者や運営者による相乗的な利益を生み出すことも可能であり、今後はそうした柔軟な活用を考えなくてはならない。【総合戦略：（３）②】
- ・企業OBを上手く活用できる仕組みができるとよい。雇用を生むことができ、知識、技術、人材等の支援体制を確保することで、アイデアをビジネスに変換することができる。【総合戦略：（３）②】

- ・農業に対する思いや市の現状について他の委員にもきいてみたい。【総合戦略：(3) ③】
- ・植木センターで駐車している車両を見ると、県外ナンバーも比較的良好に見かける。矢合地区で行われている競りでも明らかに市内在住者ではない人を見かける。やはり、稲沢市は知名度向上のツールとして植木を利用することには、アドバンテージがあると予想される。【総合戦略：(3) ③】
- ・この地域は名古屋市が近いため、大きな消費市場が存在する。将来的には、地産地消も促進できるような仕組みづくりができると農業の活性化にもつながると思う。【総合戦略：(3) ③】
- ・農地は食物の生産性としての役割だけでなく、自然環境の保全や防災機能、レクリエーション機能も備えている。南知多地域では、自然環境の豊かさから渡り鳥が例年飛来している。そのように生物多様性の観点も踏まえ、農地は複合的な要素があり、(ニュースとして取り上げられないにしても) 話題性を提供できるようなことがあれば、農業の活力にも繋がるのではないかと。【総合戦略：(3) ③】
- ・話題性が出ることで、それが生活の生業としてはともかく、特産品を生むアイデアになっていくのではないだろうか。【総合戦略：(3) ③】
- ・稲沢市では植木が儲かる産業であった時代もあり、そうしたことが外部からの参入者を排除する原因の一つになっているかもしれない、しかし、今後、世代交代が進む中で、法人化、企業参入は可能性として増えるかもしれない。【総合戦略：(3) ③】
- ・本市にはこれといった特産物は少なく、商品のブランド化が進めば、農業の繁栄とともに市のPRになるであろう。海士町については、魚介の鮮度を保ったまま都市に出荷できるシステムの導入、島で育てた隠岐牛をブランド化する等、外貨を稼ぐことに積極・大胆に取り組んでいる。【総合戦略：(3) ③】
- ・直接農家と契約締結することで、顔が見えて安心できる食品を提供できる。市場を経由するとたたき売られ、生産者側からすれば二束三文にしかならない。稲沢市は露地物が多く、市場に出回る時期はほぼ重なるため、生産者と直接契約するメリットはそれなりにある。マッチングがスムーズになる仕組みがあると良い。【総合戦略：(3) ③】
- ・農地は特に相続において問題が生じている。特に市外在住の人からすれば、無償譲渡しても良いという人も多い。農家を継がない人からすると維持するだけで大きな負担。今後は全国レベルで社会問題としてもっと顕在化するのではないかと。【総合戦略：(3) ③】
- ・高齢な営農者は既に次の世代が農業を継がないため、既に農地の維持について不安を抱えている。重点戦略で掲げているように、農業の地盤を確固たるものとする後継者不足の解消や遊休農地等を増やさないような対策がまずは必要であろう。【総合戦略：(3) ③】

- ・かつてわが家も農家だったが、祖父の病気を機に廃業。現在は、お盆の時期にほおずきを出荷するのみ。農地は現在、他の農家に貸したり、企業の駐車場として貸したりしている。農家を続けるのは大変との印象を持っている。【総合戦略：(3) ③】
- ・小学生のころに愛知文教女子短期大学とのコラボによるちびっこアイデア料理教室に参加した覚えがある。コンテストでは露のドリアを作って賞を受賞した。大学生の女の子に料理を教えていただいてとても勉強になったし、料理が楽しいと思えた。こうした産官学連携はどんどん進めてほしい。単発ではなく大きなうねりに成長させることができればなお良い。【総合戦略：(3) ③】

## 基本目標（４）：人口減少社会に向き合い、将来に渡って市民の暮らしを守ります

基本的方向①：健『幸』社会の実現を目指します

基本的方向②：安心・安全で自然環境が豊かな生活圏域を形成します

基本的方向③：地域自治の仕組みを再構築します

基本的方向④：持続可能な行政サービスへの転換を図ります

- ・ソーシャルキャピタルを勉強する中で、人間関係の豊かさの重要性を感じている。年配者については、子どもとの触れ合いや繋がりを求めており、主婦層は近所づきあい等、周囲との良好な関係を期待している。それらのパイプ役となる制度や施設等があると良いのではないかと。【総合戦略：（４）③】
- ・同居でなく実家近くに住むことで、親やその子供夫婦が良好な関係を築くことができているというのを感じている。コミュニティを維持する面でも、集落の近くや実家の隣に住むことができるようになることは大事なことはないだろうか。【総合戦略：（４）③、④】
- ・育児のあとには、ハコモノを含めて必ず介護が必要になる。市内で居住していただくためにも一貫した取組みのビジョンを持っていなければならない。【総合戦略：（４）④】
- ・今後の人口減少が何年間かは継続することには変わらないため、学校や保育園の統廃合はやむを得ないかもしれない。しかし、バス路線の強化や送迎センターを設けるといった事業展開を図っていくことも必要になるのではないだろうか。【総合戦略：（４）④】

## その他の意見

- ・ 県内自治体の総合計画を見る限り、あまり力を入れていないスタンスも見受けられる。稲沢市の総合戦略は具体的に取り組む意欲を示すものとなっている印象。
- ・ 重点戦略の「取り組みます」「図ります」という表現では、インパクトが少し弱くなる印象を与えないか。
- ・ 出生率の改善は市の努力で何とかなるものではないと思う。一方で社会増は市の施策次第で流入人口が見込めるものであると思っている。総合戦略にて具体的な施策効果、指標を検討する必要があると思う。
- ・ 名古屋市在住の人からすると、津島地域では居住地としての選択肢にはあまりならないようである。